

施策名	12 街の空間づくり		
R9年度末にめざす状態（施策目標）【P】	快適で安全な空間づくりにより、出かける人が増えている。	進捗度	B

【進捗度】 A：4年後にめざす状態をすでに実現している、B：4年後にめざす状態の実現に向けて大変順調に進んでいる、C：4年後にめざす状態の実現に向けて概ね順調に進んでいる、D：4年後にめざす状態の実現には努力が必要である、E：4年後にめざす状態の実現には相当努力が必要である

総合計画審議会からの施策目標の実現に向けた講評等

(1)魅力あふれる都市拠点の形成		
施策目標の実現に向けて得られた成果【C】	施策目標の実現に効果のあった取組【D】	取組による効果の内容とその根拠【D】
・プロモーションによりSNSの登録者数が約3倍になった。また、エリアプラットフォームの活動を通じて定期イベントなど公民連携事業が生まれ、生駒駅南口エリアの認知度が向上した。 ・社会実験で得たデータを基に生駒駅周辺で公共空間再整備の素地を築き、宝山寺参道周辺で景観形成の方向性を明確化し、生駒駅周辺地域における都市空間再編と魅力創出が進んでいる。	No.2 生駒駅南口公民連携まちづくり推進事業	・エリア内の飲食店等12件をwebページへ掲載 ・公民連携事業を6件実施
	No.4 生駒駅周辺都市再生（まちなかウォーカブル推進）事業	・道路内に滞留空間を仮設（2か所）し、来場者の8割以上が常設を希望（アンケート）
	No.1 生駒駅南口参道周辺の景観づくり	・WS（2回）、説明会（各地区1回）実施 ・景観計画改定、街なみ環境整備事業計画の策定
施策目標の実現に向けて解決すべき課題【C】	施策目標の実現に向けた今後の取組の方向性【A】	
・公共空間を活用した民間主導によるまちづくりを進めるため、収益確保策等が見えていない。 ・公共空間整備について、道路空間における活用可能な空間ボリュームが整理できていない。また、市民や事業者と共有・議論するための構想がない。 ・宝山寺駅前線の測量・設計、エリアの構想づくりに向け、策定した計画に基づき公共空間や民間建築物等に景観の規制・誘導を実施していく中で、住民の景観への関心が十分に高まっていない。	・民間の収益確保策や事業スキームについて、公民連携による検討を進める。 ・沿道店舗や関係者と協議したうえで、活用可能な空間ボリュームを整理し、公共空間整備に向けた構想をとりまとめる。 ・策定した計画へのさらなる住民理解を得るとともに、生駒駅南口エリアリノベーションと一体的に取り組みを進め、宝山寺参道周辺の特有の景観を活かしたエリアリノベーションを推進する。	

(2)身近な空間の利活用		
施策目標の実現に向けて得られた成果【C】	施策目標の実現に効果のあった取組【D】	取組による効果の内容とその根拠【D】
・複合型コミュニティ「まちのえき」づくりに取り組む自治会に対して伴走支援を行ったことで、市民の身近な拠点における交流機会の創出につながった。 ・公園における市民活動の支援や遊休不動産を活かしたプロジェクトの実施により、身近な空間の利活用が進み、人々の交流・滞在の場を創出した。	- 複合型コミュニティ 「まちのえき」づくり	・市内20自治会16拠点(累計数)で複合型コミュニティ「まちのえき」づくりが進んでいる。
	No.9 公園利活用促進プロジェクト	・公園でのイベント等で、利活用に関するリーフレットの配布や相談ブースで啓発を行った。
	No.3 生駒駅南口エリアリノベーションプロジェクト	・遊休不動産活用プロジェクトを募集し、事業化2名、サポーター21名、公開プレゼン参加50名
施策目標の実現に向けて解決すべき課題【C】	施策目標の実現に向けた今後の取組の方向性【A】	
・複合型コミュニティ「まちのえき」づくりについては、担い手不足や自治会加入率の低下、新たに取り組む自治会数が伸び悩んでいる。 ・市民等によるイベント等の実走化は進んでいるが、今後は継続性が課題である。また、市民等が日常的に公園を利活用するような情報発信が不足している。 ・遊休不動産活用をエリア価値向上につなげるための、周辺との連携が不足している。	・複合型コミュニティ「まちのえき」づくりについては、取組自治会への補助を継続するとともに、市政研修会等の自治会長が集まる機会を活用して取組の周知を図る。 ・公園の利活用だけでなく、使い方全体の整理を進め、市民等に対して、きめ細やかな情報発信を行い、新たなプレーヤーの発掘を進め、公園利活用の実走につなげる。 ・遊休不動産活用をエリア価値向上につなげるため、周辺との連携を生むプログラムを行う。	

(3)魅力ある緑・景観づくり		
施策目標の実現に向けて得られた成果【C】	施策目標の実現に効果のあった取組【D】	取組による効果の内容とその根拠【D】
・現在の生駒市に相応しい新しい緑の都市像を示すことで、第6次総合計画で掲げる魅力ある緑の空間や緑の保全、緑の利活用を進める具体的取組を市民・事業者等に示すことができた。 ・利用者を二ーズを踏まえた無駄のない公園整備と予防保全型管理により、安全確保とライフサイクルコストの縮減を両立できた。 ・大木化・老木化等の原因による倒木対策や適切な間伐を行い、安全確保と魅力ある緑の景観形成を進めた。	No.5 生駒市緑の基本計画の見直し・推進	・有識者による改定懇話会を開催し、助言等をいただいた。 ・パブリックコメントを実施した。
	No.6 公園施設長寿命化事業	アンケートを実施し、公園利用者の遊具選定に関するニーズを調査した。
	No.8 緑地等の保全整備事業	自治会や近隣住民と協議し、より市民の希望に沿った整備とすることができた。
施策目標の実現に向けて解決すべき課題【C】	施策目標の実現に向けた今後の取組の方向性【A】	
・安全・安心な暮らしを支える公園・緑地・街路樹などのグリーンインフラとしての多様な機能の発揮が求められるとともに、人口減少・少子高齢化に伴う担い手不足やライフスタイルの変化による緑に関わる人が減少している。 ・ライフスタイルの変化や価値観の多様化、地域住民の世代交代により、公園に対する地域の特性やニーズに変化が生じている。 ・緑地等の保全整備にあたって、立地により重機を使用できず、特殊技術の活用を要する緑地が少なくないことによる担い手不足や人件費高騰で事業費が増大している。	・生駒市緑の基本計画に基づく将来像の実現に向け、庁内関係部署との連携や多様な主体との協創による施策展開を進めていくとともに、達成状況を定期的に確認しつつ、計画の着実な推進に取り組んでいく。 ・公園施設長寿命化計画に基づき、予防保全型管理による効率的な維持管理を行うとともに、地域の特性やニーズの変化に対応した更新を進める。 ・立地・地域特性の状況に応じた整備計画と地域住民への十分な周知・理解のもと取り組む。また、財源確保に向けて国の補助金を活用できるよう、特別緑地保全地区の指定を行い進める。	

(4)移動しやすいまちづくり		
施策目標の実現に向けて得られた成果【C】	施策目標の実現に効果のあった取組【D】	取組による効果の内容とその根拠【D】
・バス運賃無料DAYなど様々な施策を実行した結果、コロナ禍で減少していた路線バスの利用者数は、少しずつ回復傾向にあり、公共交通網の維持・充実につながった。 ・高齢者や障がい者等を含む周辺住民の移動等の円滑化に向け、南生駒駅及びその周辺地区の他、対象の各鉄道駅のバリアフリー化事業に関する取り組みが着実に進められている。 ・歩行者空間において令和7年度に予定していた工事が完了し、歩行者への安全対策が向上した。	No.10 公共交通利用促進事業	バス運賃無料DAY等の利用促進を実行し、「いこま公共交通マップ」の配布を開始した。
	No.12 南生駒駅周辺地区バリアフリー整備事業	南生駒駅周辺のバリアフリー化に向けた設計及び関係機関との協議が進んだ。
	No.16 歩行者空間整備事業	令和7年度予定していた工事(1箇所)が完了した。
施策目標の実現に向けて解決すべき課題【C】	施策目標の実現に向けた今後の取組の方向性【A】	
・コミバスを中心とした現在の地域公共交通計画は、市内交通の実情と合わなくなりつつある。 ・物価の高騰によって運行経費が増大し、市内路線バスの赤字は年々拡大しており、運行の継続が再び困難になりつつある。 ・バリアフリー化事業の実現には多額の費用と期間を要する他、用地協力に関することなど関係者との協議、合意形成が必要となる。	・令和8年度に生駒市の現状に合った地域公共交通計画を再策定し、市内路線バスの運行継続につながるよう実効性の高い利用促進策や財政支援などの施策を進めていく。 ・補助金制度や事業手法等を国及び県に随時確認、要望し、必要な財源確保に努めるとともに、関係者との協議を継続的に行う。	

《参考》施策の進捗状況を測る代表的な指標【C】		
I 中心市街地における主要な通りの滞留人口(平日・休日)(人/時)	II 市民主体の公園利用件数(件/年)	III 都市拠点へのアクセス性(%)

《参考》めざす状態に対する市民実感度 「そう思う」+「どちらかというと思う」と回答した人の割合	
【R7.12月】 25.4%	【R6.8月】 31.8%